報告課題②　第1回テストに向けて（復習プリント）

●表面

いずれの作品についても本文を書き写す問題は（本文）と書かれたものを全て写す。（訳）と書かれた箇所には波線部の現代語訳を記入すること。

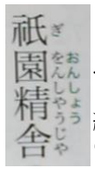
誤字に注意　随筆の「随」・・・隋・髄とならないようにすること。

徒然草の「徒」・・・縦・従とならないようにすること。

誤読に注意　過客の「客」・・・教科書P249　のふりがなを見ること。

※古典分野のレポートに取り組んでいると「現代仮名遣いで書きなさい」という問題が各所に出題されている。（例）報告課題②裏面一。慣れないうちは、教科書の歴史的仮名遣いの右横についた、「緑色のふりがな」を写してもよろしい。ただ、なるべく早く教科書P252の1～6をマスターし、ふりがなを写す作業から脱却すること。

←「緑のふりがな」とはこれのこと「おんしょう」。教科書P248参照



※竹取物語・・・竹取を職業にする人は、当時身分が低いとされていた。そこへ突然かぐわしい・輝かしい姫（かぐや姫）がやってくるという伝奇物語。かぐや姫は月の世界で罪を犯し、地球へ流罪になったとされる。（しかし、地球でも5人の男性を翻弄する罪作りな行動に出ることになる。）

※枕草子・・・あけぼの（まだほの暗い時間帯）。あかつき（明け始め）と区別している。★三重県にはあけぼの学園高校も暁学園高校もある。朝日が好きな県民性なのだろうか。

・秋は夕暮れ、冬はつとめて（早朝）が趣深いと続く。

・作者の清少納言の「清」は清原という姓の一部。父・元輔、曾祖父（祖父）・深養父も歌人として有名。

※方丈記・・・一丈（約３ｍ）の正方形をした部屋で記した随筆。下賀茂神社に復元した建物がある。作者の鴨長明は姓からも賀茂神社の神官の家に生まれたことがわかる。住居はどうせ壊れるので質素、簡素なものがいいという住居論である。

（キーワード）五大災厄…火事・飢饉・台風・地震・遷都

※平家物語・・・平家は合戦で負けた方である。どうして負けた方の姓をつけたのか考えてみるのもおもしろい。

・冒頭文の「祇園」は京都の地名ではない。インドの寺院の名前を漢字で当てたものである。

※奥の細道・・・松尾芭蕉は弟子の河合曾良と一五〇日間の旅に出た。江戸から北陸を巡り、岐阜の大垣までの旅で、多くの俳句を残した。桃青という号を持つが、その名を持つ伊賀市の桃青中学校が統廃合でなくなったことは、残念である。

●裏面

一、**「現代仮名遣いで書きなさい。」**という問題である。教科書P253の五十音図のワ行の「ゐ」を「い」、「ゑ」を「え」と書いたり、濁点のない古文に濁点を付けたり、小さく書かれていない「つ・や・ゆ・よ」を「つ」や「や」「ゆ」「よ」と書いたりするものである。また、「すべて」とあるので、「人」「食」「音」「宇治拾遺物語」もひらがなにすること。

二、教科書P250の下段にすべて説明されている。しっかり読むこと。

三、レポートには「動詞の終止形がウ「u」の音になる形」と書いたが、ごく少数、「u」の音で終わらないものもある。

・「あり」「をり」「はべり」「いまそがり」の四語については、「り」で終わる。現代語の感覚で、「ある」「をる」と言いたいところだが、注意すること。**「ラ行変格活用」**と言う。

活用の種類	例語	未然	連用	終止	連体	已然	命令
ラ行変格活用	あり	ら	り	り	る	れ	れ

下に続く主な語

		ず ば	たり て	。	とき もの	ども ば	！

参考は現代語としての「飲む」で語尾活用（変化）の練習問題に取り組むこと。普段の言葉遣いを書けばよい。

四、学習書の現代語訳Ｐ162～163上段を参考に古語と現代語を対応させながら取り組むこと。

・つれづれ…「徒然草」の「つれづれ」に同じ。することがなく退屈な状態。
・おどろく…「びっくりさせる、びっくりする」の意味**ではない**、ことに注意する。
・たまへ…尊敬語の訳し方をしないと×。＝目を覚まされる。お目覚めになる。目をお覚ましになる。
・たてまつり…謙譲語の訳し方をしないと×。起こしてさしあげる。お起こし申し上げる。

・な　動詞　そ…「な」と「そ」で挟まれた動詞を禁止する働きがある。「～～するな。」

五、現代語の会話文でも、「○○○。」と言った。となることからも分かるように、発言や思いの直後には「と」が記されるので、まずは「と」を探し、その前文を読んでみること。

六、学習書Ｐ164④上段に、学習書の編集者の考えが記されていますが、これを写してはいけません。

七、学習書Ｐ167「理解を深めるために」を参考にすること。また、教科書Ｐ251の下段の説明も合わせて読むこと。